

百名山にアタック! 利尻山山頂

貴重な植物の宝庫



▲南峰 1721m (登頂・通行禁止)
▲北峰 1719m

利尻山の最高峰(南峰)に至る道は急斜面でとても危険なため、現在は北峰を山頂としています

山頂は狭く、周囲は急傾斜に落ち込む深い谷になっているため危険です。登山コース以外には立ち入らないこと

沓形コースからの合流地点は小さな崖を登ります。足場が滑りやすいため注意してください

! 山頂付近は難所が多いため、安全を十分に確認しながら慎重に進みましょう

礼文島を望む絶景



合流地点

鴛泊コースと沓形コースの合流地点。登山道浸食によりガラガラした火山礫が道を覆っているため、スリップしやすい危険な場所です



山頂まで足場の悪い急な登りが続き、夏は合流地点付近までお花畑が広がります

足場の悪いガレ場で落石にも注意。安全を確認しながら1人ずつ進むこと

風が強い日は飛ばされそうになるので注意。悪天日は引き返そう

あまりの険しさに、昔の山登りの達人も背負子を投げ捨てたといわれる岩場が続きます

親不知子不知(親知らず子知らず)と呼ばれる難所。山体崩壊地の直下を横断します。7月上旬まで雪渓が残るため、10本爪以上のアイゼンとピッケルが必要です

↑90分
↓50分

背負子投げの難所。合流地点まではきつい道のり

▲三眺山

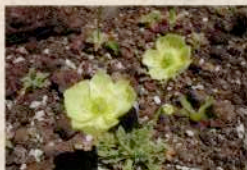
標高1461m。利尻山山頂が見えます

8.5合目(1380m)

利尻島の植物

利尻山は絶滅危惧種の高山植物や、リシリヒナゲシなど利尻島固有の草花も見られる貴重な植物の宝庫。標高1000m以上ではボタンキンバイやハクサンイチゲなどの群生が目を惹きます。例年5月下旬頃から9月上旬頃まで季節の花が次々に咲き誇ります。

利尻の花図鑑



リシリヒナゲシ



ボタンキンバイ

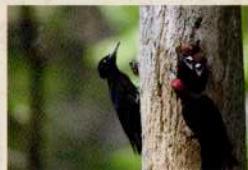
利尻島の動物

利尻島に生息する動物は、イタチやシマリス、ネズミ、コウモリなどの小動物です。また、野鳥の繁殖地・休憩地となっており、国の天然記念物であるキツツキやクマガラ、高山帯に生息するギンザンマシコやホシガラスなどの留鳥、渡り鳥も数多く見られます。

利尻の動物図鑑



コマドリ



クマガラ

利尻山コマドリプロジェクト

利尻山が「コマ」であることを「トリ」除く目的で、利尻山登山道等維持管理連絡協議会が推進している事業。今の利尻山は崩れやすい火山性の地層が露出し、登山道の荒廃が進んでいます。そこで「利尻山応援ピンバッジ」を販売し、その収益を山岳環境保全活動に活用しています。



利尻山応援ピンバッジ 1000円

登山時は携帯トイレを忘れずに!

入山前に携帯トイレを購入すること(宿泊施設や観光案内所などで販売)。携帯トイレは登山道に設置している携帯トイレブースで使用できます。高速吸収凝固シートで水分を凝固し、防菌・防疫効果にすぐれ、使用中の音や臭いを吸収する効果もあります。自然環境を守るために必ず使用してください。



携帯トイレ 1セット500円 (携帯トイレケース1個・携帯トイレ1個)



携帯トイレブース

<登山計画は慎重に>

- ・山麓から気候が変動しやすいため、自分の体力や技術、登るペースを把握し、山の状況をよく調べた上でゆとりのある計画を立てること。
- ・登山計画書は各宿泊施設、利尻森林事務所、警察各駐在所に用意しています。入山前に警察各駐在所、利尻北麓野営場、見返台登山口ポストへ必ず提出し、下山届も同様に。
- ・夜間登山は危険なので控えてください。避難小屋には宿泊できません。

<登山の準備は万全に>

- ・利尻山の給水スポットは甘露泉水のみ。食料や飲料水の準備を忘れずに。
- ・山頂は真夏でも気温が下がるため防寒対策が必要です。
- ・緊急時は携帯電話を使用できます。警察各駐在所などの連絡先を控えておくこと。

<危険箇所が増加中>

- ・沓形コースの親不知子不知のガレ場や、合流地点より山頂付近までの足場は特に危険です。滑落や落石に十分注意してください。

<自然保護のために>

- ・各自のゴミは持ち帰ること。
- ・使用済みの携帯トイレは必ず持ち帰り、登山口にある回収ボックスへ捨てましょう。
- ・高山植物保護のために指定のコース以外への散策、立ち入りは厳禁です。

